



1年 わくわくオーケストラ教室・美術館訪問



6月13日(木)快晴に恵まれ、8時15分に出発式を行い、バスに乗車後、兵庫県立芸術文化センターへ向けて出発しました。到着後、10時30分にわくわくオーケストラがスタートしました。兵庫県立芸術文化センターにある、あたたかみのある木で作られたホールには、様々な工夫がなされています。「音」をどんなふうに響かせるか、「照明」がどんな効果を与えるか、「空調」をいかに静かな状態で効かせられるか、長時間座っても疲れない「客席」であるためには・・・などなど、音楽を一番良い状態で楽しんでもらえるように、細やかな配慮がされています。兵庫芸術文化センター管弦楽団の素晴らしい「音」の響きをからだ全体で受け止め、大切な記憶のひとつとなりました。

午後からは神戸に向かいました。到着後、前半クラスと後半クラスが交代しながら、神戸ファッション美術館と神戸市立小磯美術館で、それぞれ鑑賞とスケッチを行いました。音楽と美術の芸術を満喫できた1日でした。

プログラム

- ジョン・ウィリアムズ「スター・ウォーズ」組曲より「メインタイトル」
- アンダーソン：タイプライター
- リムスキー＝コルサコフ「スペイン奇想曲」より
 - 1. アルポラーダ 4. シェーナとジブシーの歌 5. アストゥリアのファンダンゴ
- シベリウス：フィンランディア
- ～オーケストラと一緒に歌おう～「ふるさと(嵐)」



吹奏楽部フレッシュコンサート



6月15日(土)伊丹市立生涯学習センターラストホールにて吹奏楽部フレッシュコンサートが行われました。課題曲、自由曲の演奏。各学年のステージでは、今年入部した1年生10名がとてもフレッシュな演奏をしてくれました。また、2年生、3年生ごとのステージでは、2年生バンドは旋律を丁寧に演奏しており、3年生バンドではとても迫力のある演奏でした。これからのコンクール、地域貢献演奏等今後の活躍を楽しみにしています。

- 課題曲 : マーチ「エイプリル・リーフ」
- 自由曲 : 風変わりな店
- 2年生 : 「炎と森のカーニバル」
- 3年生 : 「残酷な天使のデーゼ」
- 2・3年生 : 「PRG」

部活動壮行会 大会は「自分自身との闘い」 すべての人に感謝の心を忘れずに！



部活動壮行会を6月24日(月)に実施しました。運動部は伊丹市中学校総合体育大会に向けて、文化部は文化祭、それぞれのコンクール等に向けて、部活動壮行会を体育館で行いました。

各部の代表2名が大会・コンクール等に向けての抱負を、代表生徒2名が「決意の言葉」を述べました。体操競技は5月12日(日)、陸上競技部は6月16日(日)、バドミントン競技は6月22日(土)に伊丹市中学校総合体育大会が行われました。他の部活動は、6月29日(土)・30日(日)・7月6日(土)・7日(日)に熱い闘いが繰り広げられます。

3年「赤ちゃん先生プロジェクト」みんな笑顔に！



6月25日(火)5・6校時、3年生を対象とした「赤ちゃん先生プロジェクト」が行われました。赤ちゃんには、人が元々持っている善なるところを引き出すチカラがあります。赤ちゃんがいると皆が笑顔になり、赤ちゃんを通じて会話が始まります。生徒たちも赤ちゃんの笑顔を見て、みんなの顔の表情が優しくとてもいい笑顔をしていました。

「赤ちゃん先生プロジェクト」は情緒を豊かにしたり安定させ、表情や泣くことで表現する赤ちゃんの感情を読み取ろうとするうちに、人としての感情が動き出し、他人のことを思いやる精神が身に着いたり、コミュニケーション力を向上させます。2学期、3学期にも予定しています。

全校集会 校長講話 「優しさと思いやり」 令和元年 5月27日(月) 7校時

今日は「優しさと思いやり」についてのお話をします。まず、詩を紹介します。

「心は、だれにも見えないけれど、心づかいは見える

思いは見えないけれど 思いやりは だれにでも見える」

東日本大震災の時に被害を受けた人々のことを考えて、ACジャパンという団体が作った映像が流されました。このACジャパンという団体は、お金儲けを目的とするのではなく、たくさんのお金を出し合って、住みよい社会づくりを進めるために作った団体です。紹介した詩と合わせて流された映像では、電車の中で座席に座っていた男子学生が、電車に乗ってきたおなかの大きな妊婦さんに席を譲ろうかどうか迷う場面があり、結局違う席の女性が席を譲りました。そして、次の場面では、長い石の階段を大変そうに上がっていくおばあさんを見たその学生が、一度通り過ぎた後に戻ってきて、そのおばあさんに手を貸す姿がありました。

実は、この詩は宮澤章二さんという作詞家の方が作った詩「行為の意味」をもとにつくられたものだそうです。宮澤章二さんは、元高校の先生で、詩人・作詞家として活動を開始し、校歌や合唱曲、童謡などの作詞を多数手がけ、特に校歌は300校以上にのぼり、『ジングルベル』の訳詞者としても知られている人です。その詩の中で、心遣いや思いやりが見える理由を「人に対する積極的な行為だから」と言っています。そしてこの詩はこんなふうに結ばれています。詩の全文を紹介します。

あなたの「こころ」はどんな形ですかと、人に聞かれても答えようがない

自分にも他人にも「こころ」は見えないけれど、ほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見えるのだ

それは、人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える

それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心があたたかい行為になり

やさしい思いがやさしい行為になるとき「心」も「思い」も初めて美しく生きる

それは、人が人として生きることだ

以上が詩の全文です。

電車の中で、席を譲れなかったあの男子学生のように、たとえ思いやりの心や気持ちを持っていても、それを行動として行わなければ、思いやりや気持ちを持っているとは誰も思いません。反対に、やさしく温かな思いやりのある行動や心遣いは、だれにでもすぐにわかります。

まずは、クラスや学年、学校の中で、南中学校のみなさんが持っている、人を思いやる「優しい心」や気持ちを、勇気を持って積極的に行動として表してください。